

# S E R I NEWS RELEASE

平成20年7月8日  
財団法人 静岡経済研究所  
理事長 古知弘行

〒420-0853 静岡市葵区追手町1-13  
アゴラ静岡5階

TEL 054-250-8750  
FAX 054-250-8770

平成20年7～9月期 静岡県内主要産業の四半期見通し

## 消費関連業種で慎重姿勢目立つ

本調査より、静岡県産業の実態をより正確に反映させるため、調査対象業種として新たに「住宅」「食品スーパー」「家電量販店」「外食」「人材派遣」を加えるなど、業種区分の見直しを行いました（詳細は5頁参照）。

当所が実施した県内主要産業（20業種）の四半期見通し調査によると、現在（4～6月期）の業況は、『好調』な業種はなく、『順調』が2業種（工作機械、情報サービス）、『普通』が8業種、『低調』が10業種となった。企業の設備投資の伸び率鈍化や内需低迷の影響が県内産業に広がっている。

また、今後（7～9月期）については、20業種中16業種が『横ばい』、4業種が『下降』を見込む。原材料・燃料価格の高騰により、多くの業種で収益確保が厳しくなるほか、食品などの値上げによる消費マインドの低下が懸念され、消費関連業種を中心に慎重姿勢が目立つ。

### 県内主要産業の動向

#### （1）現在の業況について

県内主要産業の現在（4～6月期）の業況は、『好調』な業種はなく、『順調』が2業種（工作機械、情報サービス）となり、以下、『普通』が8業種、『低調』が10業種となった。企業の設備投資の伸び率が鈍化したことから、前回調査では『好調』だった工作機械が『順調』へと1ランク減速し、建設やリースも『低調』に推移した。また、自動車販売や家電量販店は『普通』にとどまっているが、大型小売店や観光・レジャーなど多くの業種で『低調』となっており、原材料・燃料価格の高騰などを要因とする内需低迷の影響が県内産業に広がっている。

## (2) 今後の見通しについて

7～9月期の見通しについては、20業種中16業種が『横ばい』、4業種（建設、大型小売店、食品スーパー、自動車販売）が『やや下降』を見込んでいる。業種ごとにみると、原材料・燃料価格の高騰により、食品・飲料、製紙、電器部品、自動車部品、建設、運輸・倉庫などで収益確保が一層厳しくなることが予想される。また、食品・日用品の値上げが進む大型小売店、食品スーパーでは来店客数の減少や買い控えを懸念、特に外食、観光・レジャーでは家計引き締め・消費マインド低下といったマイナスの影響が強まりそう。さらに、家電量販店ではオリンピック特需への期待もあるが、消費関連業種は総じて低迷予想。一方、工作機械や情報サービスは引き続き堅調だが、企業の設備投資の先行き減速が不安材料となる。なお、半期調査業種では、家具が内需低迷で低調、楽器は内需低迷を外需で補う見通し。

## (3) 需給バランス、在庫水準、価格動向について

ほとんどの業種（20業種中16業種）で原材料価格の『上昇』を見込んでいる。しかし、製品価格の『上昇』を見込むのは4業種で、価格転嫁が進まない業種も多い。一方、製品在庫水準は『適正』だが、需給バランスでは『供給超過』が4業種ある。

総じてみると、一部の設備投資関連業種は依然堅調ながら、原材料・燃料価格の高騰によるマイナス影響の広がりから、消費関連業種を中心に慎重姿勢が目立つ。

### 四半期ごとの県内産業の業況の推移

年次		平成17年		平成18年				平成19年				平成20年	
四半期													
対象月(は調査月)		7~	10~	1~	4~	7~	10~	1~	4~	7~	10~	1~	4~
現在の業況	好調	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0
	順調	1	1	2	2	2	2	1	1	1	1	1	2
	普通	6	8	7	7	7	9	10	11	11	9	8	8
	低調	12	9	10	11	11	9	9	8	8	10	11	10
	不調	2	3	2	1	1	1	1	1	1	1	1	0
全業種の平均階級値		2.41	2.45	2.55	2.59	2.59	2.68	2.64	2.68	2.68	2.59	2.55	2.60
好調: 5													
順調: 4													
普通: 3													
低調: 2													
不調: 1													
今後の見通し	上昇	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	やや上昇	1	0	0	0	2	1	0	0	0	0	1	0
	横ばい	19	22	22	21	20	21	21	22	22	22	21	16
	やや下降	2	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	4
	下降	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

注1) 調査は、毎年3、6、9、12月に実施。現在の業況とは、調査時点（6月調査なら4～6月期）における業況、

今後の見通しとは、調査時点における翌期（6月調査なら7～9月期）の見通しを示す

注2) 平成20年（4～6月）時点で調査対象業種を変更しており、それ以前と以降の数値に連続性はない

注3) 平均階級値は、好調：5、順調：4、普通：3、低調：2、不調：1とする、半期調査業種を除く20業種の平均値

## 平成20年7～9月期 静岡県内主要産業四半期見通し調査一覧表

調査項目 業種	業界景気の現況	業界景気の見通し	静岡県内主要産業の見通し																			
			生産量 (7～9月期の 前期比伸び率)	出荷額 (7～9月期の 前期比伸び率)	生産量 (前年 同期比 率)	出荷額 (前年 同期比 率)	操 業 度	需 給 バ ラ ン ス	製 品 在 庫 水 準	原 材 料 価 格 の 動 向  (前4～6月期対比)	製 品 価 格 の 動 向  (前4～6月期対比)	資 金 繰 り	受 注 残  (カ月)									
製茶	●																					
食品・飲料	●																					0.5～1.0
家庭紙	◐																					0.2～1.0
産業用紙	◐																					0.5～1.0
工作機械	○																					3.0～8.5
民生用電器部品	◐																					0.3～1.5
自動車部品	◐																					1.0～3.0
二輪車部品	●																					1.0～3.0
建設	●																					4.5～7.0
住宅	●																					2.5～7.2
大型小売店	●																					
食品スーパー	●																					
自動車販売	◐																					
家電量販店	◐																					
運輸・倉庫	◐																					
情報サービス	○																					
外食	●																					
観光・レジャー	●																					
リース	●																					
人材派遣	◐																					
家具	●																					0.5～1.0
楽器	◐																					

「家具」「楽器」は半期調査で、7～12月期の見通し。生産量などの前期比伸び率は、前1～6月期に対する7～12月期の伸び率。

### 表の見方と注意

業界の現況	業界景気の見通し	操業度	需給バランス	製品在庫水準	生産量・出荷額の伸び率 原材料・製品価格の動向	資金繰り
好調 ○	上昇 ↗	100～90%	非常に需要超過	非常に過少	非常に増加・上昇 (10%以上) ↗	非常に余裕
順調 ○	やや上昇	89～80%	需要超過	過少	増加・上昇 (3～9%)	余裕
普通 ◐	横ばい	79～70%	均衡	適正	横ばい (2～2%)	普通
低調 ●	やや下降	69～60% ○	供給超過	過多	減少・下降 (3～9%)	逼迫
不調 //	下降 ↘	59%以下	非常に供給超過	非常に過多	非常に減少・下降 (10%以上) ↘	非常に逼迫

(注) 「業界景気の見通し」および「業界景気の見通し」は、対象企業経営者が業界景気動向をどうみているかを調査したもの。  
「家具」「楽器」は半期調査で、1～6月期の現状と7～12月期の見通し。前期比・前年比もすべて半期ベース。  
調査方法は、アンケート調査とヒアリング調査による。  
調査時点...平成20年6月中旬。  
調査対象企業...県内主要20業種 + 半期調査2業種の企業191社。

## 主要業種の現況と7～9月期の景況見通し

業種	業界天気	業界景気の現況と今後の見通し
製 茶	●●  ●●●	<p>(現況)・新茶シーズンを迎えたが需要に伸びはなく、製茶問屋の出荷額は前年並みの模様。そのため仕入姿勢も慎重で、一番茶の品質は近年で最高といわれるが、平均単価は前年を1割程度下回った模様。</p> <p>(見通し)・仏事・ドリンク需要は底堅いものの、家庭需要は食品・日用品などの相次ぐ値上げで低価格志向が強まるとみられ、専門小売店を取引の主体とする製茶問屋ほど、業績は厳しい見込み。一方、二番茶以降の荒茶相場も軟調な見通しで、茶農家の生産意欲減退を懸念。</p>
食 品 ・ 飲 料	●●  ●●●	<p>(現況)・食料缶の生産は、前年比5%前後の減少、その他の食品も水産物や穀物の価格上昇により、生産は前年を下回って推移した模様。飲料もゴールデンウィークの需要が伸びず、前年を下回った模様。</p> <p>(見通し)・食品の生産は、水産物や鋼材の価格の高止まりがマイナス要因となるが、一方で、輸入小麦価格が10月に引き上げられることが確実視されていることから、引き上げ前の一時的な増産も期待できる。飲料は、梅雨が早期に終焉すれば、前年を上回る生産が見込まれる。</p>
家 庭 紙	●  ●	<p>(現況)・引続き需要は底堅く、県内再生紙物の生産量は前年水準を確保した。年初に表明した価格修正も5月までには浸透し、古紙価格の上昇にも一服感がみられたことから、採算面は以前より改善した。</p> <p>(見通し)・原燃料価格の高騰に対応すべく、県内再生紙物大手メーカーが、7～8月にかけて15%程度の値上げを表明しており、中小メーカーも追随する見込み。需要は底堅いものの、大手が積極的に古紙確保に動いており、中小メーカーは材料確保に苦慮することになりそう。</p>
産 業 用 紙	●  ●	<p>(現況)・白板紙の生産量は前年並みの水準を確保したものの、段ボール原紙は主力の加工食品をはじめとして需要が振るわず、前年を若干下回って推移した模様。</p> <p>(見通し)・白板紙は、大手メーカーが表明している値上げ前の駆け込み需要が予想される。段ボール原紙は、7～9月は飲料向け需要の増加が見込まれるものの、食料品などの値上げの影響で総じて引き合いは鈍く、生産量は前年をやや下回って推移する見通し。</p>
工 作 機 械	○  ○	<p>(現況)・全国の月次受注額は、平成16年5月から48カ月連続で1,000億円台を維持しているが、需要をけん引してきた外需の伸び率にかげりがみられ、受注額は、全国・県内とも前年並みにとどまった模様。</p> <p>(見通し)・内需の低迷を外需でカバーする構図に変わりはないと見られ、受注金額は高水準を保ちながら、前年並みを確保する見込み。内需は、主力の自動車業界向けに力強さがなく、前年割れになると見られる。一方、外需は、アジアや中南米が伸張し、前年実績を上回る見通し。</p>

○好調 ○順調 ●普通 ●●低調 // 不調 業界天気は上段が4～6月期、下段が7～9月期

調査対象業種の見直しについて

「静岡県内主要産業の四半期見直し」の調査対象業種を、平成20年度（平成20年7～9月期分）より、下記の通り、一部見直し・変更いたしました。

新規に調査対象とした業種：住宅、食品スーパー、家電量販店、外食、人材派遣

対象範囲を変更した業種：缶詰 食品・飲料、家庭用薄葉紙 家庭紙、白板紙・段ボール原紙 産業用紙

半期調査 半年毎とした業種：家具・楽器...6・12月調査、広幅織物・製材...9・3月調査

調査対象から外した業種：漁業、サンダル、プラモデル ...年間調査を実施(年一回)

業種	業界天気	業界景気の現況と今後の見通し
民生用電器部品	●	<p>(現況)・エアコンの生産は国内への生産移管が寄与し、冷蔵庫も需要が底堅く、いずれも前年実績を上回った。携帯電話は、主力機種の新モデルが堅調で前年水準を上回ったが、前期と比べて伸び率は鈍化。</p> <p>(見通し)・エアコンと冷蔵庫は、前年を上回る見込みだが、鉄鋼などの素材価格が高騰する中、部品メーカーへのコストダウン要請は一段と厳しさを増す。携帯電話は、実需にやや陰りがみられるものの、相次ぐ新機種投入による需要喚起でカバーし、前年実績を上回る見通し。</p>
自動車部品	●	<p>(現況)・外需にけん引されて、国内自動車生産は前年比プラスで推移した。輸出が伸びた日産の復調も、大きく寄与した。県内部品メーカーの出荷高も、総体的には前年水準で推移した模様。</p> <p>(見通し)・新興国や資源国向けの輸出が期待され、国内自動車生産は堅調に推移しそう。県内部品メーカーの出荷高も安定して推移する見通しだが、北米市場の低迷や原材料価格の高騰、円高の進行など、自動車メーカーに逆風が吹く中、コスト削減要請は一層厳しくなる模様。</p>
二輪車部品	●●	<p>(現況)・全国の完成車生産台数は前年を割り込んで推移。国内は50ccクラスの落込みを受けて低迷、海外では北米が振るわず、輸出台数も大幅な前年割れ。県内部品メーカーの受注は、前年を下回っている。</p> <p>(見通し)・全国の完成車生産台数は、前年を下回る見込み。海外では、北米の回復にしばらく時間がかかりそうで、欧州にも陰り。国内は、燃料高騰や駐輪取締りの厳正化で一段の二輪車離れを懸念。こうした状況下、県内部品メーカーの受注も、前年を割り込む見通し。</p>
建設	●●	<p>(現況)・公共工事は、10億円以上の大型工事が少なく、暫定税率の一時失効による発注の先送りなどの影響もあり、低調に推移。民間建築工事も、設備投資意欲に減速感があり、前年を下回って推移した。</p> <p>(見通し)・公共工事は減少基調に変化はなく、前年を下回る見通し。民間建築は、昨年の建築基準法改正の反動増もありそうだが、原材料高の影響と設備投資意欲の減退が見込まれ、前年と同水準程度に落ち着くとみられる。</p>
住宅	●●	<p>(現況)・住宅着工戸数は、昨年4月の分譲マンションの着工ラッシュの反動により、前年比では大きく下回ったものの、戸数自体は一昨年以前の水準で推移している。</p> <p>(見通し)・着工戸数は、建築基準法改正の反動増で前年をやや上回りそう。原材料高の影響が大きく、一部の業者が着工を見合わせている一方で、値上げ前に購入したいという消費者もある。なお、基準法の影響は下火になりつつも、申請準備に慎重となるなど根強く続く見通し。</p>

○好調 ○順調 ●普通 ●●低調 // 不調 業界天気は上段が4～6月期、下段が7～9月期

業種	業界天気	業界景気の現況と今後の見通し
大型小売店	●●	<p>(現況)・百貨店は、来店客数の減少傾向が続くなど、消費マインドの低迷が顕在化しており、既存店売上高は前年を下回った。スーパーは、主力の食料品で値上げが浸透したことを主因に、前年を上回った模様。</p> <p>(見通し)・百貨店は、海外高級ブランド店の導入などでテコ入れを図るが、消費マインドの改善は見込み難く、売上高は前年を下回る見通し。スーパーは、ガソリン価格高騰により郊外型店舗の集客の減少が懸念されるが、食料品値上げの寄与で、前年並み水準は確保できそう。</p>
食品スーパー	●●	<p>(現況)・食料品値上げによる客単価の上昇で、県内主要店舗の既存店売上高は、前年を上回った。割安感のあるPB商品は、供給が不足するほどの人気を集めたものの、商品全体の買上点数は低迷した。</p> <p>(見通し)・食料品値上げの一段の進展が見込まれ、県内主要店舗の既存店売上高は前年を上回る見通し。ただし、店舗間の競合激化が見込まれるほか、食料品値上げを嫌気した消費者の買い控え傾向が強まり、商品買上点数の減少が、より顕在化してくることが懸念される。</p>
自動車販売	●●	<p>(現況)・4～6月の静岡県内乗用車販売は、前年に比べて1.2%の減少となった。車種別では普通乗用車が+7.6%と好調を維持したものの、小型乗用車が5.5%、軽乗用車が2.8%と前年割れとなった。</p> <p>(見通し)・全体的な需要の伸び悩みとともに、ガソリン高や物価高を背景に新車購買に対する消費者マインドの低下が懸念されている。市場をけん引してきた普通乗用車への波及も予想され、小型・軽乗用車の回復見込みも立たない中、前年割れで推移する見通し。</p>
家電量販店	●●	<p>(現況)・薄型テレビなどAV家電と一眼レフ型のデジカメの販売が好調で、パソコンはやや苦戦したが、全体としては前年水準は確保した模様。しかし、競合店の進出で、1店舗当たりの売上げはやや減少。</p> <p>(見通し)・最需要期を迎えるエアコンや、冷蔵庫、洗濯機などの白物家電で省エネ性を売り物にした高額商品の動きが良く、ボーナス商戦に期待がかかる。液晶・プラズマテレビと「ダビング10」が運用開始されるDVDレコーダーは、五輪特需が見込まれる。</p>
運輸・倉庫	●●	<p>(現況)・トラック輸送量は、前年並みの水準で推移した模様だが、燃料価格の上昇により厳しい収益環境が続いている。普通倉庫は、紙・パルプや電気機械の荷動きが鈍く、入出庫量は前年をやや下回った模様。</p> <p>(見通し)・トラック輸送量は前年並みを確保する見通しだが、燃料価格は引き続き高値で推移すると見込まれ、収益面のさらなる悪化が懸念される。普通倉庫は、夏に向けて主力の飲料や電気機械に期待がかけられ、入出庫高、保管残高ともに前年水準を確保する見通し。</p>
情報サービス	○	<p>(現況)・全国の受注ソフトウェア開発の売上高は、金融業や官公庁からの案件が増加し、前年をやや上回った模様。県内の中小事業者も、地元企業や首都圏からの案件で十分な受注量を確保したとみられる。</p> <p>(見通し)・官公庁からの案件は減少するが、金融業などからの受注が高水準で推移するとみられ、引き続き売上高は堅調に推移する見通し。データ管理業務の受託強化やソフトウェアのサービス化などで、収益基盤を安定化させる動きが広まるとみられる。</p>

○好調 ○順調 ●普通 ●●低調 // 不調 業界天気は上段が4～6月期、下段が7～9月期

業種	業界天気	業界景気の現況と今後の見通し
外食	●●	<p>(現況)・外食産業の売上高は、前年水準を確保できた模様。食材の値上がりを商品に反映させたことで客単価は上昇したが、外食を控える人も増えたために来店客数は前年を下回ったところが多かった。</p> <p>(見通し)・今後も、さまざまな商品で値上げが行われるため、一般家庭の外食費は、さらに削られる可能性が高く、業界の売上高も前年をやや下回るとみられる。食材以外でも、電気代やガス代の値上げが行われるため、収益力の低下は避けられない見通し。</p>
観光・レジャー	●●	<p>(現況)・県内ホテル・旅館の総売上高は、前年を下回った模様。ゴールデンウィークが曜日配列に恵まれず、ガソリン価格も高騰し、5月と6月の週末は雨が重なるなど、プラス材料がほとんどなかった。</p> <p>(見通し)・最需要期を迎えるものの、客数確保に苦戦して、総売上高は前年をやや下回るとみられる。ガソリン価格の高止まりに加え、高温による避暑地への流出、旅行代理店が被災地支援を目的に東北や九州へ集中送客を行う可能性もあり、新規客の獲得には苦労しそう。</p>
リース	●●	<p>(現況)・4月から導入された新リース会計基準による利用控えなどは見られなかったものの、設備投資に勢いがなく、リース件数・契約高ともに、前年実績を5%程度下回って推移した模様。</p> <p>(見通し)・これまで需要が強かった輸送用機器、一般機器関連でも、設備投資に慎重な企業が増えており、リース件数・契約高ともに、前年実績を5%程度下回る見通し。収益面でも、案件を巡る競争激化から、厳しさが増す見込み。</p>
人材派遣	●	<p>(現況)・静岡県内の実働派遣労働者数は、一般事務やIT関連などの年度変わりの求人落ち込みが大きく、TASPOカードのキャンペーンなどの短期的な需要は好調だったものの、前年をやや下回った模様。</p> <p>(見通し)・景気の減速により、県外企業の工場や研究所などの求人需要が伸び悩んでいる一方で、派遣先企業からの要求に見合う人材が不足していることから、限られた人材を確保するための求人広告費の増大などが収益を圧迫する状況が続くそう。</p>
家具(半期見通し)	●●	<p>(現況)・1～6月における県内出荷額は、前年を下回って推移した模様。主力の中・高級木製家具の需要低迷や、住宅着工戸数の減少に伴う据付家具の不振などから、販売は伸び悩んだ。</p> <p>(見通し)・7～12月の出荷額は、引き続き前年をやや下回って推移する見込み。新製品に関する引き合いは限定的で、住宅メーカーとのタイアップや病院、福祉施設などへの販路拡大を図る動きはあるものの、受注に結びつくまでには時間がかかるとみられる。</p>
楽器(半期見通し)	●	<p>(現況)・県内メーカーの販売額は、電子ピアノは伸びたものの、アップライトピアノの国内販売が不調であったことや、管楽器が前年好調の反動で減少したことなどから、前年をやや下回った。</p> <p>(見通し)・国内は、主力のピアノが単価の安い電子ピアノにシフトすることで販売額が押し下げられ、全体の売上高は微減を見込む。また、海外は、北米の不調を、堅調な欧州や、ロシアや中国などの新興国での販売増加が補い、前年をやや上回る見通し。</p>

○好調 ○順調 ●普通 ●●低調 ■不調 業界天気は上段が4～6月期、下段が7～9月期  
(ただし、家具・楽器の業界天気は上段が1～6月期、下段が7～12月期)

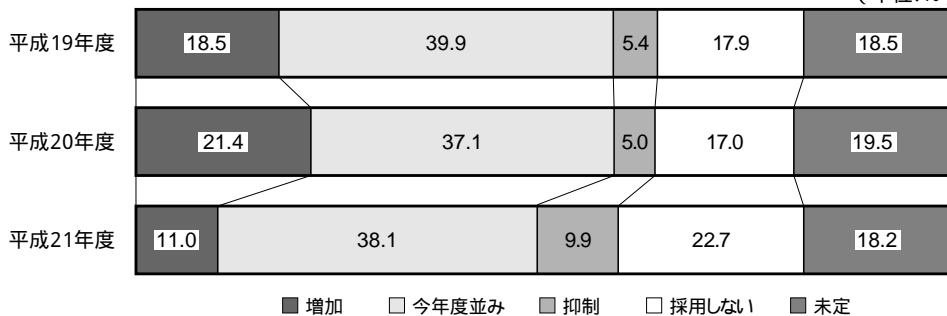
## 新卒者の採用にも慎重姿勢

県内企業に、来年度（平成21年度）の新卒者の採用方針について聞いたところ、今年度の採用数と比較して「増加」させると答えた企業は、昨年の調査と比べて10.4ポイント減少し11.0%に止まった。逆に、「抑制」および「採用しない」企業を合わせた割合は、昨年調査比10.6ポイント増加して32.6%となり、業界景気の低迷を反映して、新卒者の採用にも慎重な姿勢がみられる（図表）。

業種別にみると、製造業では、工作機械や自動車部品などで「今年度並み」とする企業が多いが、半数以上の企業が「採用しない」もしくは「未定」と回答している。一方、非製造業では、自動車販売や情報サービスなどで「増加」もしくは「今年度並み」と回答しており、製造業に比べて新卒採用に前向きな企業の割合が多い。

図表 静岡県内企業の新卒者の採用方針

（単位：%）



調査要領：調査時点 平成20年6月、調査対象企業数191社、回答社数181社、有効回答率94.8%  
四捨五入の関係上、各項目の合計は必ずしも100%にはならない。